

序 文

● 腎不全で療養している方と家族

腎不全は長期にわたる療養を必要とする疾患である。保存期から透析療法、腎移植、さらには人生の最終段階に至るまで、患者は病気とともに生活を続けていく。その過程では食事療法や通院、治療法の選択、就労や経済的課題など、多くの問題に向き合うことになる。こうした療養生活は患者本人だけで完結するものではない。

家族メンバーもまた、生活の調整や意思決定への参加、精神的な支援など、さまざまな形で病気の影響を受ける。患者の病状や生活の変化は家族にも影響を及ぼし、家族の変化は患者にも影響を与える。腎不全の療養は患者だけの問題ではなく、家族全体の課題でもある。

● 家族の考え方とファミリーセンタードケア

家族のあり方は時代とともに変化している。現代社会においては、多様な価値観をもつ人々によってさまざまな形の家族が存在している。マリリン・M・フリードマン（Marilyn M. Friedman）は、「家族とは、感情的な絆によって結ばれ、家族であると自認し、相互に影響し合いながら役割や機能を果たす人々の集団である」と述べている¹⁾。すなわち、家族とは単に血縁や婚姻関係によるつながりだけではなく、互いが家族と認め合い、情緒的につながることで成立するものである。また、家族システム論^{2),3)}では、家族は相互に影響し合うメンバーからなる一つのシステムであり、一人の変化が他のメンバーにも影響を及ぼし、家族全体も変化すると考える。

腎不全というできごとでも患者だけではなく家族全体に影響を与え、家族はその都度バランスを崩しながらも再び均衡を保とうと変化していく。それぞれの家族は、その関係性のなかで病気や療養生活の意味を見出しながら、家族全体と個々のメンバーの安寧を保とうとしている。

このような家族の捉え方を基盤とするのがファミリーセンタードケアである。ファミリーセンタードケアは、1950年代の小児医療において親子分離の弊害への反省から発展した考え方^{4),5)}であり、患者と家族を切り離して捉えるのではなく、患者と家族を一つの単位として捉えることを重視している^{5),6)}。また、家族は患者を支える重要な存在であり、家族メンバーと医療者はパートナーシップをもって患者を支えることになる。さらに家族は患者ケアの協働者であると同時に、支援を必要とする人たちでもある。

● 腎不全患者と家族へのファミリーセンタードケア

腎不全医療では、患者の療養生活が長期に及ぶことから、家族の存在はきわめて大きい。治療の選択や継続、日常生活の調整、人生の最終段階における意思決定など、多くの場面で患者と家族はともに歩んでいく。

そのため医療者には、患者だけでなく家族にも目を向け、患者と家族がもつ力を引き出しながら支援することが求められる。患者と家族、そして医療者がパートナーとして協働することによって、その家族らしい療養生活を支えることが可能となる。

本増刊号では、ファミリーセンタードケアの基本的な考え方を共有したうえで、多職種による支援、治療法に応じたケア、ライフステージごとの課題、多様な家族背景への対応などについて取り上げる。

本増刊号を通して、患者だけでなく家族全体を見つめる視点を深め、腎不全で療養している方とその家族への支援を考える機会となれば幸いである。また、患者と家族、そして医療者が協働して、その家族らしい形を築いていくプロセスに目を向けていただければと願っている。

2026 年 7 月

昭和医科大学大学院保健医療学研究科

三村 洋美

文 献

- 1) Friedman MM, Bowden VR, Jones EG : Family Nursing : Research, Theory, and Practice. 6th ed. 2008, Pearson Education, Boston
- 2) Wright LM, Leahey M : Nurses and Families. 8th ed. 2021, F. A. Davis, Philadelphia
- 3) Bowen M : Family Therapy in Clinical Practice. 1978, Jason Aronson, New York
- 4) Shelton TL, Jeppson ES, Johnson BH : Family-Centered Care for Children with Special Health Care Needs. 1987, Association for the Care of Children's Health, Washington, DC
- 5) Kuo DZ, Houtrow AJ, Arango P, et al : Family-centered care : current applications and future directions in pediatric health care. Matern Child Health J 2012 ; 16 : 297-305
- 6) 浅井宏美 : 周産期・小児医療における Family-Centered Care—概念分析. 日看科会誌 2013 ; 33 : 13-23